



令和 6 年 5 月

幕張東小学校図書室

図書だより No.2

本の森からこんにちは

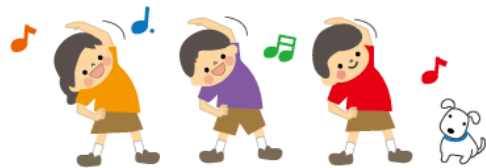
緑がまぶしい季節になりました。運動会も終わり、落ち着いて学習や読書に取り組めるのではないのでしょうか？

第70回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書も届いています。

今年度より、コンクールの扱いが大きく変わりました。（くわしくは裏面を見て

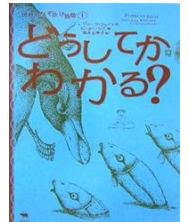
ください。）学校の課題図書は、しばらくの間は、図書室の中だけで読む本にしますので、興味のある人は手に取ってみてください。（夏休み前には、感想文を書いてみたい人に貸し出します。）

本を読んで、読書感想文に挑戦してみませんか？



『世界のなぞかけ昔話① どうしてかわかる？』

ジョージ・シャノン：文 ピーター・シス：絵 福本友美子：訳（晶文社）



01. 魚つり

ある夏の日のこと、2人のおとうさんと2人のむすこが湖へ魚つりにでかけました。あれこれ話しながらつりをしていると、昼までに1人1匹ずつ魚がつかれました。

みんな魚がつかれたので、2人のおとうさんと2人のむすこは、上きげんで家に帰りました。でも、つかれた魚の数はぜんぶで3匹きでした。



2人のおとうさんと2人のむすこ。1人1匹ずつ魚がつかれたのに魚はぜんぶで3匹き。1匹きもにがしちやいない。どういうわけか、わかるかな？

（答えは本にあります。読んでみてね。）

このほかにも『世界のなぞかけ昔話② あたまをひねろう！』

『世界のなぞかけ昔話③ やっとわかったぞ！』

ともに ジョージ・シャノン：文 ピーター・シス：絵

福本友美子：訳（晶文社）もあります。

たくさんのなぞかけむかし話があるので、解いてみよう。





第70回 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。

せいしやうねんとくしやかんそうふんぜんこく

青少年読書感想文全国コンクール



※コンクールへは個人では応募できませんが、今年度からは、夏休みの自由課題として取り組みます。挑戦したい人は夏休みにおうちで書いて、学校に持ってきてください。その後、校内審査をし、選ばれた人が千葉市予選に出品されます。詳細は夏休みのしおりでお知らせします。

かだいとしやしょうかい 課題図書紹介

しょうがっこうていがくねん 小学校低学年 (1・2年生)

◆「アザラシのアニュー」

あずみ虫：作（童心社）

◆「ごめんねでてこい」

ささきみお：作・文（文研出版）

◆「おちびさんじゃないよ」

マヤ・マイヤーズ：ぶん

ヘウォン・ユン：え

まえざわあきえ：やく（イマニネーション・プラス）

◆「どうやってできるの？チョコレート」

田村孝介ほか：写真（ひさかたチャイルド）

こおりのうえで、アザラシのあかちゃん
が、うまれました。

このあかちゃんアザラシが、いっしょうけんめいそだっていくまでのだいぼうけんのおはなしです。



だいすきなおばあちゃんに「きらい」っていっちゃったわたし。
あやまりたいのに、でてこない。わたしのなかの「ごめんね」でてこい。



テンちゃんはちいさなおんなのこ。でも、みためで、はんだんしないで！っておもってます。

てんこうせいのちいさなおとこのこのマルくんは、いつもいじめっこに、いじめられています。それをみていたテンちゃんは、マルくんをたすけようと…。



チョコレートは、どうやってつくるの？
カカオは、どのようにして、にほんにくるの？
たべものができるまでのふしぎと、それをつくるひとのしごとをしよう！

チョコレートがたべたくなっちゃうよ！



第70回 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。

せいしやうねんとくしやかんそうふんぜんこく

青少年読書感想文全国コンクール



※コンクールへは個人では応募できませんが、今年度からは、夏休みの自由課題として取り組みます。挑戦したい人は夏休みにおうちで書いて、学校に持ってきてください。その後、校内審査をし、選ばれた人が千葉市予選に出品されます。詳細は夏休みのしおりでお知らせします。

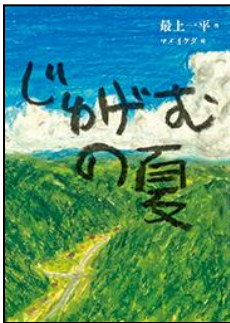
課題図書紹介

しょうがっこうちゅうがくねん 小学学校中学年 (3・4年生)

◆「いつかの約束 1945」

山本悦子：作 平澤朋子：絵（岩崎書店）

ある日、であったのは、自分は9さいだという、おばあさん。「戦争はどうなったの？」いっしょに歩いて話した、忘れられない一日。



◆「じゅげむの夏」

最上一平：作 マメイケダ：絵（佼成出版社）

山ちゃん、シューちゃん、かっちゃん、ぼくは仲よし4人組。

4年生の夏休みにやりたいことを宣言した、難病の親友かっちゃんの願いを叶えるため、ぼくらはこっそり計画を練った……。

◆「さようなら プラスチック・ストロー」

ディー・ロミート：文 ズユエ・チェン：絵

千葉茂樹：訳（光村教育図書）

約5千年前に発明されたストローは、なぜ今、問題になっているのだろう？ ストローの発明と改良の歴史、プラスチックごみが環境や海の生き物に与える影響、解決策など、SDGsを考えた行動するためのノンフィクション。



◆「聞いて 聞いて！：音と耳のはなし」

高津修、遠藤義人：文 長崎訓子：絵（福音館書店）

音は震える空気の波。大きな音は大きくうねり、高い音は細かく震える。身のまわりの音がいきいきと立体的に聞こえるのは、2つの耳に届く音が少しズレてるせいなんだって！ 音のヒミツと耳のしくみがわかるかがく絵本。





第70回 読んで世界を広げる、書いて世界をつくる。

せいしょうねんどくしょかんそうぶんぜんこく

青少年読書感想文全国コンクール



※コンクールへは個人では応募できませんが、今年度からは、夏休みの自由課題として取り組みます。挑戦したい人は夏休みにおうちで書いて、学校に持ってきてください。その後、校内審査をし、選ばれた人が千葉市予選に出品されます。詳細は夏休みのしおりでお知らせします。

課題図書紹介

しょうがっこうこうがくねん 小學校高学年（5・6年生）

◆「ぼくはうそをついた」

西村すぐり：作 中島花野：絵（ポプラ社）

あの人を救いたくて、原爆で亡くなった息子のフリをした。小学5年生のリョウタが、自分の住むヒロシマの街を歩きながら、今も消えない原爆の傷と人々の想いについて考えます。



◆「ドアのむこうの国へのパスポート」

トンケ・ドラフト、リンデルト・クロムハウト：作
リンデ・ファース：絵 西村由美：訳（岩波書店）

トム先生のクラスの子どもたちは作家からのなぞときにいどみ、ふうがわりなパスポート申請やビザ作りに取り組みます。
ドアのむこうにあるのは……？



◆「図書館がくれた宝物」

ケイト・アルバス：作 櫛田理絵：訳（徳間書店）

両親のいないきょうだいの疎開先での心のよりどころは村の図書館。そんな3人はひそかに「本当の親」になってくれる人をさがしていて…。第二次世界大戦下の心あたたまる物語です。



◆「海よ光れ！：3・11 被災者を励ました学校新聞」

田沢五月：作（国土社）

東日本大震災の避難所となった小学校で、被災者といっしょに寝泊まりしていた子どもたち。何を感じ、自分たちに何ができるのかを考え取り組んだこととは…。子どもたちの思いを伝えるノンフィクション。

